

★校内研だより★

2025. 1 文責 ○○

12月6日(金) 国語 「もう一つの物語」 5の1 ○○○○総括教諭	○成果 ・相手意識、目的意識 →切実感（自分事）のある学び →主体的（意欲的）な学び ・視点をもったペア、グループ対話 ・相談できる場の設定 ・安心して関われる学級の雰囲気	○より良くするために… ・児童同士の話し合い →どのように全員が活動に参加できるか ・物語（国語科）としての書き方の手立て ・個と全体、収束と拡散のバランス ・本時目標と評価
---	--	--

☆“この子”を大事にした授業づくり

今回の授業提案では「座席表」からも「誰を意識した授業か」を見ることができた。抽出児の一人に注目すると、本時の中で「書くことに悩む →自分の考えをもつ →相手に伝えたい、聞きたいという思い →他者との関わり合い →自他を認める」という姿が見られた。国語科としての学習目標に迫ることに加え、他者理解や自尊感情（自己肯定感や自己有用感など）の高まりにつながっていた。児童の学び合いの中にも、教師が児童の学びの姿を見守ったり、前時までに朱書きによってアドバイスをしたりするなどの隠れた支援や環境があった。日々のきめ細やかな見とりから“この子”を大事にした授業づくりが行われていた。

☆小田原市教育委員会教育指導課指導主事より

【研究のあり方について】

- ・子どもの姿、子どもの話で語る姿
- ・子どもファーストの指導案（子どもの思いから計画変更）

【目指す資質、能力について】

○主体的・対話的で深い学びについて

- ・「書きたい」と思う単元の構想 →子どもの視点（子どものつぶやき）で指導案が書かれている
→具体的な学びの姿、子どもが主語
- ・児童と考える学習計画と進捗の見える化 →相手意識や目的意識（2年生の「○○さん」）
- ・ワークシートの活用 →授業者がねらいをもって使用
→分かりやすさ、使いやすさ（自由枠があったこともよい）
- ・対話の視点の確認 →他者との関わり、グループやペア学習の必然性
→どのように設定するか
- ・目的が共有された上での学習の自由さ →この授業をきっかけとして次の活動へ

○子どもたちを信じて任せることも大事

→人生が豊かになるというように少し未来の話をイメージ。教師という仕事を楽しんでいますか？

☆今年度の「校内研だより」より ～今後に生かしていきたいこと～

【6月】子どもの“知りたい”“聴きたい”という主体的な姿が他者との関わりにつながる。思考がつながるような手立て（板書等）のためには、子どもの反応を予想し、幅広く授業を構想することが重要（のぞまない姿も予想しておく）。

【8月】体験や活動、友だちとの関わりを通して自らの考えが深まる。子どもの主体性と支援のバランスや、全員が学びの楽しさを感じられるようにするためにはどうすればよいかを考えていきたい。

【9月】「子どもの思考の流れ」から「友だちとの関わり」をどう作るか。そこに「必然性」や「切実感」はあるのか。子どもの実態や思いを見とり、本時における「目指す児童の姿」を意識した授業づくりをしていきたい。

【11月】本時のめあてをどのように確認するか。子ども一人ひとりの見取りを大事にし、子どもの困り感や課題意識へ適切な支援指導を行うこと。グループの意図や方向性を共有することで、グループで関わり合う「必要感」が生まれる。